

# 人工股関節置換術後患者の下着の検討

機能的でプライバシーも保てるパンツの考案

The Under ware of Patients after Total Hip Arthro plasty

An Idea of Ideal Patient's Under ware

東3階病棟：佐藤美穂子 林 弥生

## 要 約

人工股関節全置換術患者10例を対象に、臥床～リハビリ初期のT字帯及びパンツについてのアンケート調査を実施。これらについての羞恥心、扱い難さなどが明らかになった。ある患者自作のパンツにヒントを得て、プライバシー及び機能性へも効果がある下着について検討し、効果が見られた。脱臼予防の為の良肢位での側臥位は患者にとって羞恥心が強いということ、トイレ内での下着の上げ下げが大変であるということを確認し、リハビリ初期の看護として個別に応じた援助が重要である。

## キーワード

①T字帯 ②パンツ ③羞恥心 ④脱臼 ⑤人工股関節

## 1. はじめに

当病棟では毎週1～2例の人工股関節全置換術（以下THR）が行われている。患者の約9割が女性である。術後は脱臼防止の為、股関節の内転、内旋と90度以上の屈曲を避ける必要がある。

通常術後4日目から車椅子移動を開始している為、4日目に浴衣から甚平型の病衣に更衣し、同時に下着はT字帯からパンツに履き替えている、T字帯のままだとトイレでの扱いが大変であり、普段の生活習慣からいってもパンツを履くのが当たり前の心情である。手術創は大腿上方側面30cmほどであり術後2週目で抜糸される。

創はちょうどパンツの下のゴム部分があたる位置で創処置時にはパンツを下ろさなければならず、患者にとっても医療者にとっても何かと不都合なことが多いのが現状である。

そこでTHR後の患者は、下着に対しどのような意識を持っているのか、実際に不都合な点は何処なのかを知り術後の看護、患者指導に役立てたいと考えた。又あるTHR後の患者さんが使っていた自作のパンツにヒントを得て機能的でプライバシーも保てるパンツを作成、使用してみたので報告する。

## 2. 研究期間 平成9年5月～平成9年10月

## 3. 方 法

- (1) 入院中のTHR後の患者女性7名に対し、面接による聞き取り調査を行い、問題点を抽出。
- (2) 抽出された問題点に沿ってアンケートを作成、女性10名に実施し再確認。
- (3) THR術後のパンツの作成、3名の患者に試着してもらい意見を聞く

#### 4. 結果

T字帯について臥床中は便利で扱いやすかった、しかし気分的には嫌であり恥ずかしかった、ふわふわしていて恥も外聞もない、寒かった、抵抗を感じた、という声が主に聞かれた。パンツを着用してからは、パンツのゴムが傷に当たりそうで怖かった。又、トイレに行き始め片手はどこかに捕まらないといけない状況で、下着がスムーズに上げ下できなかった、下着のウエストゴムがきついと下着を下げた時足が内転しそうで怖かった。傷の消毒時下着を脱ぐのが恥ずかしかった、との多くの意見が聞かれた。

これらの意見を抽出しアンケートをおこなった。

(人)

項 目	はい	いいえ
T字帯は便利でしたか	9	1
T字帯は恥ずかしかったですか	9	1
消毒時下着を付けていたかったですか	8	2
トイレでの下着の上げ下げは大変でしたか	7	3
傷に下着があたって怖いと思いましたか	6	4

T字帯では恥ずかしいですか？に対し恥ずかしいと答えた人が9人と多く、T字帯への羞恥心が強かった。又消毒の時下着を付けていたかったとする人が8人だったことから、外転、側臥位の消毒時にも恥ずかしさを感じていることが明らかになった。

トイレでの下着の上げ下げが大変だったとの答えも7人と多くみられた。

下着に傷が当たりそうで怖いとする人が6人いたが、創痛があった人が1人と少なく、傷への苦痛よりも恐怖心が強いことがわかった、そこで今回のようなパンツを考案した。試着した下着は創への圧迫は無く、片手で上げ下げができ、消毒時も履いたままできた、との意見が聞かれた。

#### 5. 考案

THR後の患者に下着を中心に実態調査を進めてきた。T字帯は便利で楽だが恥ずかしいという思いが強いようである。

日常ほとんど使用したことのないT字帯という特殊なものを病院という環境においては受け止めている。これは診療優先、機能的重視のため生活習慣や羞恥心には目をつぶらざるをえない状況によるものと思われる。何十年もの間、形を変えずにきたT字帯には大きな利点と欠点があることがわかった。

車椅子に乗りトイレに行き始めるようになると、排泄が自立したかのように思われ、看護介入が少なくなる。車椅子用トイレの中で四苦八苦している様子が、今回の調査を通し目に浮かぶようになった。排泄というものは、基本的最低限の欲求であり、一番に自立したいと願うものである。

THR後は外転位という大きく足を開いた状態での消毒時への強い羞恥心があり、女性が多かった事からもプライバシー保護への必要性を認識させられた。このような点に対し、考案された下着はよい結果が得られ効果的だったと思われる。今後はこの結果を生かし、どのように活用していくのが望ましいかを検討していきたい。

## 6. 終わりに

これまで見逃されがちだった部分に目を向けることができ、様々な思いを聞く事ができた。今回は対象人数も少なく、この限りではない点も有るかと思いますが、今後も患者から学ぶ姿勢を大切にしていきたい。

## 参考文献

村尾知子他：羞恥心への配慮からT字帯を考える，九州地区看護研究学会集録YF7．1995．